ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習 とっとり

鳥取県教育委員会発行
2017. 1 睦月
168

鳥取県内の生涯学習講座が満載！

ページ
1 特集
日本の棚田百選 横尾棚田を「守り、伝える」
いがみ田を守る会
3 地域の誇りである伝統行事を若い力で伝承！！
多里かしら打ち保存会
4 とっとり県民カレッジ連携
生涯学習講座情報（1・2月）
26 連携講座 おすすめピックアップ
27 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
29 船上山少年自然の家・大山青年の家
30 ファブラボとっとり
31 菊池桃子氏 講演会
企画展示「むきばんだのあゆみ」

『切り絵シリーズ』市の木「つばき」（倉吉市）
冬枯れの町に咲き誇るつばき。その鮮やかな色は、傷ついた心に勇気を与えてくれることだろう。

絵・文：紙原 四郎 氏

日本の棚田百選 横尾棚田を「守り、伝える」

岩美町の南東に位置し、標高約230メートルの傾斜地に広がる美しい「横尾棚田」。平成11年に、「日本の棚田百選」※1 に選ばれたこの棚田を、「いがみ田を守る会」※2 が中心となって維持管理をするとともに、棚田オーナー制度にも取り組み、県内外のオーナーなどと一緒に保全と交流を行っています。会長にお話を伺いました。

会長
平井（ひらい） 貞夫（さだお） さん

いがみ田を守る会

かつては広大な棚田が広がっていた

ＪＲ山陰線「岩美駅」から約 11 ｋｍの山間の洗井（あらい）地域（横尾、洗井、蕪島（かぶらしま）の３集落）には、全国でも有数の美しい横尾棚田があります。江戸時代中期に、地滑りによってできた緩斜面を開墾してつくられたこの棚田には、かつて牛を使って田を耕し、村人が総出で田植えや稲刈りをする姿がありました。

しかし、冬は雪深く、住民は暮らしやすさを求めてまちに移り住み、少子高齢化も追い打ちをかけて、50 年前には 95 戸あった家が、現在は 35 戸になりました。このため、耕作放棄地も増え、現存する棚田は、約 16ha、約 230 枚に減少してしまいました。

理解ある人に呼び掛け、会を結成

50 年前までは昔のように美しかった棚田の風景ですが、このままではなくなってしまうと危機感を抱いた人たちは、平成８年、まちに移り住んだ人も含めて、有志約 10 人で「いがみ田を守る会」（以下、「守る会」）を結成し、棚田の維持管理を始めました。会長を務める平井さんは、「昔の人が苦労してつくった棚田を、自分たちの代で終わらすわけにはいかない。『守らなくては！』と思い、地域の理解ある人に声を掛けて回った」と当時を振り返ります。

現在、守る会の会員は、55 歳から 87 歳の計 11 人。約 20 枚の田んぼを借り、１年間の作業計画を立てて活動しています。主な活動は、会員による日常作業と会員以外の人を受け入れて行う季節的作業です。

棚田を守るために必要な日々の作業

日常作業には、水路の維持管理と草刈りがあります。どこでも米づくりには水の管理が重要ですが、ここでは平野の田んぼに比べて水の管理がとても大変です。この棚田の水源は、約３㎞山奥に入った鳥越のどんづまりにあり、そこから水を田んぼに引いてきます。水源と水路を、村に住んでいる３人が１週間交替で管理します。５月から盆過ぎまでは、悪天候であっても毎日水源に上がって水路の入口を掃除し、途中も詰まらないように見回ります。「今、イノシシが悪いことをするんですよ。水路に土を掻き落として、堰（せき）ができて水が流れんようになるんです」と平井さんは苦笑します。

また、草の管理も欠かせません。ここの棚田の畦（あぜ）は全部土でできているため、草が生えやすく、放っておくと害虫の住処になって、大事な稲にも被害が及んでしまいます。また、畦や田んぼの草を刈らないと、草の根が地中深く入り込み、根が腐ると穴が開いて保水性が悪くなります。「なんせ、草丈が高いところもあって、草刈り機が届かんです。草刈りは手

間がかかって大変です。１年も草刈りをしないでいると、その田んぼは使えなくなりますよ」

オーナー制度にも取り組んでいます！

会員だけでは、棚田を維持することが難しいと感じていたところ、町からオーナー制度という方法があることを聞き、平成９年から取り組んでいます。年会費１口３万円で、町が募集し、今、20 組を受け入れています。オーナーは、鳥取の人もいますが、東京、大阪、兵庫などの県外の人もいて、作業の時にはわざわざ来られます。東京の方は、家族で飛行機とレンタカーを使ってきます。子ども連れで参加する若い夫婦もいて、みなさんがとても楽しみにされています。

ここの田んぼはゆがんでいるので、オーナー毎に区画ができません。おおよそのところに名前を書いた看板を立てています。そこで収穫した米は等分してオーナーに送ります。その他にも地元でとれた白ネギやサツマイモ、果物、餅なども送っています。近年は、作業ばかりではなくて、収穫祭の時にお楽しみ企画も計画しています。

平井さんは、「みんなが、ここはいいところだ！ここの米はおいしいと言われます。景色がいいところで農業体験もできて、おいしいものも食べられるし、ここの人もいいからでしょうな」と人気の秘密を話します。オーナーの受入は、今のところ 30 組限定です。

共同作業をして、みんなで収穫を祝う

会員以外の人も参加して行う作業は、５月に田植え、４月と７月に草刈りや水路清掃、９月に稲刈りがあります。この時には、オーナーをはじめ、町内の小学生有志が親子で参加します。また、特定非営利活動法人学生人材バンクにも協力していただき、鳥取大学と公立鳥取環境大学の学生がボランティアで参加。多い時には 60 人くらいが集まり、怪我に注意しながら共同作業をします。

参加した子どもや学生たちにも昔ながらの方法を知ってほしいと思い、田植えや稲刈りは手作業で行います。刈った稲は稲木（いなぎ）にかけて天日干し。農作業の後のお昼ご飯は格別です。

毎年、11 月には作業に携わった人が集まって収穫祭をします。昨年の収穫祭は、11 月５日（土）に開催。お天気にも恵まれ、午前中は、田後（たじり）漁港に行って「するめづくり体験」をしました。その後、バスで蒲生（がもう）活性化施設「一寸法師の館」に戻り、地域のみなさんが腕を振るってつくったごちそうで収穫を祝いました。

これからも地道な活動で棚田を守る！

平成 26 年に山形で全国棚田サミットがあり、分科会で事例発表をして好評を得ました。他からも発表依頼はきているようですが、「それよりも、地道に活動したい」と平井さん。「私も年だし、そろそろ会長を次の代に譲ろうと思っています。うちには、頼もしい後継者がいますよ。この度、退職する人がいて、当初からのメンバーで、その人は内容も良く分かっているし ･･･」

平井さんに後継者を引き込んだ秘訣を聞くと、「酒を一緒に飲むことですな。棚田を見ながら、汗を流した後の仲間と一緒に飲むビールはうまい！いい気分で話も弾みます」とにっこり。「先祖が苦労してつくった棚田だけぇ。もうちょっと頑張らなあいけんなぁ～」と平井さんは鳥取弁で自分に言い聞かせるように話します。

横尾棚田の美しさの陰には、守る会と地域の人たちの弛まぬ努力と苦労がありました。

※１　日本の棚田百選
棚田は国民の健康的でゆとりある生活を確保する上からも大きな役割を果たしていることから、農林水産省は、多面的機能を有している棚田について、その保全や、保全のための整備活動を推進し、農業農村に対する理解を深めるため、平成 11 年７月 26 日に 134 地区（当時 117 市町村）を「日本の棚田百選」に認定しました。鳥取県は、「横尾」（岩美町）と「つく米（よね）」（若桜町）が認定されました。
一般社団法人地域環境資源センターホームページより引用

※２　いがみ田
いがんでいる（曲がっているの方言）田んぼのこと。

水路掃除

稲刈り

田植え

地元食材たっぷりのごちそう

するめづくり体験

多里（たり）かしら打ち保存会

日南町多里地区に伝わる「多里かしら打ち」の保存、継承並びに後継者の育成に努める「多里かしら打ち保存会」の会長に、活動についてお話を伺いました。

会長
荒木（あらき） 定美（さだみ） さん

地域の誇りである伝統行事を若い力で伝承！！

青年団と子ども会を中心に活動中

「多里かしら打ち」は、明治維新前より五穀豊穣を祈願して行う多里神社の秋祭りです。「かしら」とは大太鼓のこと。毎年 11 月の第 2 日曜日に多里地区の各家をまわり、太鼓を打ちながら舞い、祭りの最後に多里神社に奉納します。

昔は、多里神社のある新屋（にいや）自治会の若い成人男性のみが舞っていましたが、少子高齢化により、昭和 40 年頃からは女性を含めた多里地区の青年団全員と子ども会で行うようになりました。

平成 15 年 11 月、伝統ある「かしら打ち」の伝承を目的に、青年団 15 名と子ども会 16 名を構成員として「多里かしら打ち保存会」を設立。現在、35 名で活動しています。

鮮やかな衣装と美しい踊りが自慢です！

「かしら打ち」は、6 頭（6 台の太鼓）をそれぞれ 4 人が叩きます。長じゅばんにたすきをかけ、赤い手甲、袴、草履ばきで、頭には花笠を被り、子どもは法被に鉢巻を締めます。バチは、紙を細く切って作ったぼんぼりのようなもので飾ります。華麗な踊りと鮮やかな衣装は評判も良く、毎年撮影に来られる方もいます。

叩き手の他に、露払いをする「鼻高面（はなたかめん）」という猿田彦 1 名と、「チャリ」という道化役が 2 名います。鼻高面は、天狗の面を被り、周囲を清めながら練り歩きます。「チャリ」は滑稽な表情のお面を被り、人々をおどかし、家に入ってご馳走を持ち出してみんなに配るなどして盛り上げます。

「かしら打ち」には「ヒーガテント」「ビッチュウ」「サンネン」「タテマツリ」「トンテイト」「シャンシャンギリ」「テンテコ」「テーロレロ」の 8 種類の囃子があり、打ち方自体は明治時代から変わっていません。

練習は、約 1 か月半前から体育館で週 2 回～3 回行い、本番直前になると多里神社の境内で行います。練習中の子どもたちの送迎、当日の衣装の着付けやご飯の準備などは保護者が行います。

移住者も参加し、祭りを盛り上げます

多里は、日南町の中でも移住者が多い地域です。ここには、日本一のクロム産出を誇った若松鉱山がありました。様々な地域から人が入ってきて、そのまま住みついた人もたくさんいました。

そのような多里地区には、今、大阪や東京などからの移住者も生活しています。祭りの頃になると地域の人と一緒になって「かしら打ち」に参加します。

移住者は、「かしら打ち」に参加することで、地域の人とのつながりを深めることができます。

誇りある伝統を後世に伝えたい

叩き手はだんだん少なくなっていますが、「多里かしら打ち」は地域の誇りです。平成 17 年には、同町の「福栄（ふくさかえ）かしら打ち」とともに、鳥取県指定無形民俗文化財にも指定されました。

平成 23 年には、「かしら打ち」のルーツと言われる広島県庄原市の祭礼行事を視察しました。今後は、少しずつ歴史について調べ、庄原市とも交流したいです。

また、最近は、「民俗芸能の集い」や「中国・四国ブロック民俗芸能大会」等に出演し、多くの方に観てもらう機会も増えました。

若者から若者へ大切に伝承されてきた「かしら打ち」。後世に引き継がれることを願っています。

滑稽な表情の「チャリ」と一緒に
各家を回ります

「チャリ」

最後に荒木会長からひとこと・・・

「平成 26 年に地域を盛り上げようと、多里の若者が青年団とは別に、新たな組織を自主的に立ち上げ活動中です。多里地域の若者は元気ですよ！頼もしい限りです」とニッコリ。